

第6回 大学院生による専門職現場の課題提起と教員による提言 「理学療法士の専門性の確立」

理学療法士の位置づけと専門性 - 医療・介護分野における役割の拡大と課題

専門職大学院となる本学大学院福祉医療マネジメント研究科では、医療・福祉分野の各々の専門職が直面する課題について、職域を超えて共有します。そうすることで、職種間の連携や処遇の違い、相互理解の不足など、現場の努力だけでは解決が困難な課題が可視化されます。本レポートでは、大学院で学ぶ福祉医療分野の専門職の方々から、ニュースではなかなか取り上げられない現場課題と専門教員による提言をまとめました。福祉・医療分野の構造改革の一助になればと願います。

◆現状課題

理学療法士として12年の経験を重ねる中で、考えている課題を報告します。理学療法士は、医師の指示のもとで診療の補助の一部として理学療法を行う医療専門職です。その基本業務は、身体障害のある人に対して、基本的動作能力の回復を図ることを目的とした治療、運動、物理的手段を用いた介入を行うことです。

理学療法士の業務範囲は、医療現場だけにとどまらず、介護予防、防災防止、産業保健など、幅広い分野に拡大しています。特に最近では、厚生労働省の労働災害防止計画に理学療法士の活用が明記されるなど、新たな活躍の場が広がっています。しかし、介護施設での機能訓練など、他職種との業務範囲の重複や、予防分野での専門性の発揮方法など、様々な課題があります。また、専門的な評価や高度な理学療法技術の提供が可能であるにもかかわらず、その専門性が十分に認知されていません。

理学療法士の専門性を確立し、発展させていくためには、他の医療専門職との違いや強みを明確にし、相互理解を深めることが必要ではないでしょうか。また、産業保健分野など新たな領域での活動においては、実施可能な業務の範囲や方法をより明確にしていく必要があります。特に、グレーゾーンとなっている予防的介入や健康増進活動について、法的な整備を進めることが必要ではないでしょうか。さらに、スポーツ分野などでは活動実績を積み重ねることで、社会的認知の向上を図ることが重要だと思います。

◆課題提起者

吉野恭平
福祉医療マネジメント研究科1年
現職:理学療法士



◆提言者 文京学院大学大学院八木 麻衣子特任准教授



専門分野:理学療法学、リハビリテーション
医学、医療経済学、医療経営学、臨床疫学

社会的活動:コメディカル組織運営研究会
代表、神奈川県理学療法士協会管理者育成
推進委員会部長

◆提言

昨今、理学療法士の活動の場は、医療・介護現場でのリハビリテーションという従来の枠を超え、予防医療、介護予防、地域支援、スポーツ分野、産業保健、ヘルスケア産業など、多岐にわたる分野に拡大しています。その役割も、患者の身体機能の回復にとどまらず、医療・介護の価値を向上させ、社会全体の健康を支える「健康づくりのパートナー」となりつつあります。

一方で、理学療法士の役割の拡大にあたっては、身体機能や基本動作能力への深い知識とスキルを活かし、生活、社会復帰や健康づくりを支援する、という理学療法士の専門性を最大限に活かすため、他職種との役割分担と連携が大切になります。勿論、多職種連携において役割の重複は少ないのですが、互いの専門性を理解・尊重しつつ「協働」の機会と捉えることで、どの分野でもより多角的で包括的な対応が可能になると思います。

理学療法士が専門性を深化させ、他職種との連携を通じて幅広い分野で活躍することは、間違いなく社会全体の健康と福祉の貢献につながります。そのためには、法的な整備も重要ですが、各理学療法士がマネジメントスキルを含む新しい知識や技術を取り入れて幅を広げていくと同時に、現場での実践を通じて信頼関係を築き続けることが求められます。そのような行動の積み重ねが、理学療法士の社会的認知の向上につながるのだと思います。